

事業名	親子で作ろう やさしい寄せ植え						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
日程	12月18日(土)	講師	日本ハンギングバスケット協会 高橋 洋子	参加費	2,500円(材料費)		
対象者	小学生と保護者	参加者数 (延べ)	23人(審議委員等を含む)	募集方法	チラシ		
趣旨	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、家で過ごす機会が増えたが、スマートフォンの普及により、ひとりゲームなどをして過ごすことが多い。そこで、親子で協力して製作する時間とし、コミュニケーションを図る機会とする。また、寄せ植えを習得し、きれいなまちづくりの一助とする。						
内容	親子で葉牡丹等の植物を使い寄せ植えを行い、できあがった寄せ植えの手入れ方法を学ぶ。						
工夫	親子で協力してひとつの寄せ植えを製作することで、親子のコミュニケーションを図る。また、寄せ植えを習得し、近所の方に伝えることで、地域連携や、きれいなまちづくりの一助とする。						
成果	親子で協力して楽しみながら華やかな寄せ植えができあがった。このことにより親子で何かを行う事に対しての自信や達成感につながったと思われる。						
課題	本講座の募集対象は全学年とした、参加者の8割が低学年であった。アンケート結果は保護者・児童ともに好評であったが、児童の集中力が続かない組もあり、低学年には少々ハードルが高いように思われた。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う必要があるか。 市民や利用者のニーズに合っているか。 目的や役割が薄れていないか。 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に情報は流れているか。 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果が得られているか。 さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 市民の満足度は高いか。
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性はどうか。 事業運営に学習者が参画しているか。 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	B	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記	小学校低学年生にはハードルの高い内容のため、来年度以降は高学年に絞って募集をかけることを検討したい。	

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [A or B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>B } [A]</td> <td>B } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>B } [B]</td> </tr> <tr> <td>A }</td> <td>A }</td> <td>B }</td> <td>A }</td> <td>B }</td> </tr> </table>	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]	A } [A]	B } [A]	B } [B]	A } [A]	B } [B]	A }	A }	B }	A }	B }
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]												
A } [A]	B } [A]	B } [B]	A } [A]	B } [B]												
A }	A }	B }	A }	B }												

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

親子で作ろう やさしい寄せ植え

令和3年12月18日(土) 午前10時00分～午後0時30分



講座のねらい

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、家で過ごす機会が増えています。

しかしスマートフォンの普及により、子どもがひとりでゲームなどをして過ごすことが多いようです。

そこで、親子でコミュニケーションをとりながら、一つの寄せ植えを作ることを目的に当講座を開講しました。

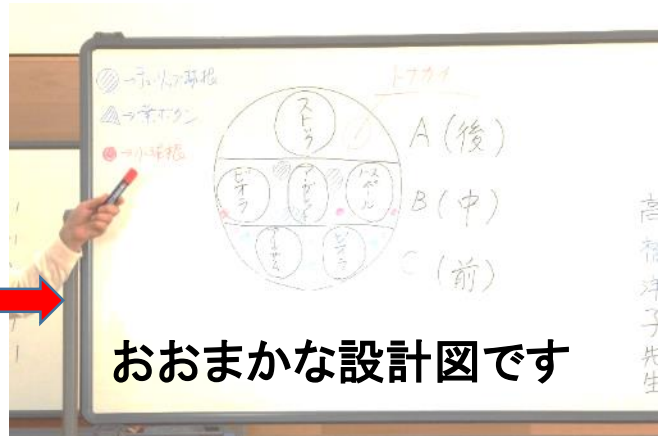
また、育てた寄せ植えがまちの人の目に留まることで、きれいなまちづくりの一助とすることもねらいとしています。

当日の様子

先生から手順を教わり、さっそく寄せ植えに取り掛かります。



講義の開始です



おおまかな設計図です



さあ、自分たちで
やってみましょう



先生からアドバイスを
もらいながら進めます。



寄せ植えの完成が近づいて
きました!!

この材料から作った寄せ植えが……



完成しました！



今回の講座で良かった点

- ・どの組も2名が顔を寄せ合いながら、保護者が土を掘り児童が花を植えるコンビネーションで、華やかな寄せ植えができ上がった。このことは達成感につながると思われる。
- ・「親子でコミュニケーションをとりながら一つの寄せ植えを作る」という目的を達成できた。

今回の講座の反省点と展望

- ・本講座の募集対象は全学年だが、参加者は10名中8名が低学年。児童の集中力が続かない組もあり、低学年には少々ハードルが高いように思われた。
- ・アンケート結果は保護者・児童ともに好評。だが、寄せ植えを青少年事業として実施するなら、募集対象を高学年に絞ってもよいかもしれない。

【参考資料 本講座参加者の性別・学年】

性別\学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
男	0	0	2	0	0	0	2
女	3	2	1	1	1	0	8
計	3	2	3	1	1	0	10